

関連項目：教育活動プラン①

## 児童の特技やがんばりを披露する場を設定する

### 目的

本校では、一人ひとりに有用感をもたせ、いじめや不登校のない、明るく楽しい学校作りをめざしています。そこで、友だちのよさをみつけさせるとともに、自己表現力をつけさせるために、児童会を中心に、児童の特技やがんばりを披露する「じまん大会」を開催することにしました。

### 内容

#### ● 代表委員会での話し合い

学校を今まで以上に、仲のよい笑顔いっぱい为学校にするためにはどうしたらよいか話し合いました。代表委員会で話し合う中で、みんなががんばっていることや得意なことを発表する場を作ったらどうかということになりました。

じまん大会を「名人・達人・物知り博士大集合」と名づけて、じまん大会の具体的な内容や参加の仕方についてみんなで話し合いました。

#### ● 児童会を中心に「じまん発表会」の計画

児童会が主体となって全校生に呼びかけることになりました。まず、体育館朝会やお昼の放送で全校生に呼びかけるとともに、ポスターを廊下に貼って参加者を募集しました。

また、各クラスから出された出場者名簿を基に、出場順やプログラムを考えたり、司会の進行方法を話し合ったり、じまん大会がより楽しく進められるよう計画をしました。

#### ● 友だちのよさが分かった「じまん大会」

一学期は 54 名の児童が参加し、昼休み当日には、見学者でいっぱいになり大盛況でした。児童会から応援するときの態度についてお願いした後、発表会が始まりました。フラフープや剣道、バレーボール、一輪車、そろばん、ピアノ、漫才など自分のアピールをいっしょうけんめい、また、楽しそうに発表していました。低学年など、発表内容が稚拙な子もいますが、見学している児童は、発表している子に、惜しめない拍手をしていました。お互いを思いやる心が育っているなと感じました。

二学期には、夏休みに作った工作や習字を楽しそうに披露しました。三学期は、お手玉や手品、リコーダーの演奏、なぎなたの演舞など興味を引く発表も加わりました。発表前に児童会から、「友だちのどこがすばらしいか考えながら見るようにしましょう。」と伝えることにより、見学の仕方や拍手の仕方がよくなりました。

#### ● 児童の感想

子どもたちの感想文には「～ができるのがすごかった。」「〇〇さんの知らなかった一面を知ることができた。」「みんな、いっしょうけんめいしていたのでまねをしたい。」など肯定的な感想が書かれており、友だちのよさが分かり合えたと感じました。また、出場した児童は、「緊張したけど成功してよかった。」「次に出場したら〇〇をしたい。」と意欲を見せていました。



### 成果

じまん大会の後のアンケート結果では、「友だちのよいところが見つけれられましたか」が 87%、「またじまん大会があったら出てみたいですか」が 50%となりました。友だちの知らなかった一面を知ることができ、お互いの距離がせばまったように感じるとともに、明るく楽しい学校づくりに貢献できたと思います。